

拓水

題字は 泉澤連三浦会長

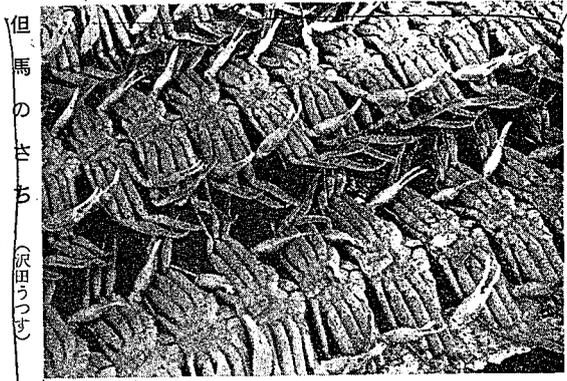
12月号

No. 135

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産改良普及協会
神戸市兵庫区新在家町12-3
発行人 三浦清太
TEL 6685・686954
編集 拓水編集委員会
発行日 毎月30日
一部10円
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

昭和43年の 飛躍のために 今年の反省を

12月のことを師走(シロス)と呼ぶのは、この月に限って何時もは泰然自若ゆったり構えている偉い先生方でもアチコチ走り廻らされる程、忙しいと言う意味らしい。しかし最近では世の中が変ったのか、或は余りにも進歩が速いとでも言うのか、年がら年中いるんな事がもち上がり、実に公私ともにやたらと忙しい。うっかりしていようもんなら、瞬く間に取り残されそうだ。
安いと思って産地で買った土産物が都会でそれより安く売っていたりする昨今が、私共の季節感や距離感や郷土感のようなものを嫌厭なしに薄いヴェールでおし包みボヤケさせて仕舞うのだ。さて、今年もいよいよ押しつまり余すところ僅か、年の瀬寒風のひとつときに忙中閑を得て、去り行く昭和42年哀歌の歌々を静かに省み乍ら、思いと希望を来年に馳せ廻らせる端緒になれば幸いと思い、今年あった本県水産業界の主な出来事を列挙する次第。



■ 船中漁業の大規模実施
栽培漁業は人工生産した稚魚を大量に放流して漁業資源を積極的に増し、漁場の生物社会を人間本位の有益な状態に改造しようとするものである。今年本県には約二五〇万尾のクルマエビ稚魚が放流されたが、放流種苗を作っている瀬戸内海栽培漁業協会では昭和四十五年までに一億尾以上のクルマエビ生産可能増殖栽培漁業の大規模実施に明るい見通しがついた。

**▼ 漁業制度改正の
実施**
特選の漁業法改正法がきまると同時に特別国会で成立業の被害は増大の一途をた

▼ 併助成法施行
漁業協同組合併助成法は七月二十四日に公布施行された。この法のねらいは、組合の合併を促進し最近の経済情勢に対応し、本来の協同組織としての活動が十分にできるように必要な経営基盤の組織としてつくりだすことである。

▼ 漁業協同組合の合併
本年度は合併の動きが活発化され、併助成法の施行に際して沿海市町村に地区漁協を併進協議会の設置が進められていた。なお、この法律は昭和四十六年三月三十一日までの期限法である。

▼ 底曳漁船大和堆出漁
本年七月から十一月にかけて、但馬底曳漁船三十七隻は、スルメイカ約のメツカといわれる大和堆(沖合約三百哩)へ初出漁、総水揚げ一億数千万円という快挙をやってのけた。これに刺戟されて来年度は約二倍の出漁が今から評判になっているが、但馬底曳業界では

▼ 出光興産姫路製油所の許可見送り
通産省は八月十日午後四時から、東京虎ノ門の日本ガス協会石油審議会(植村半郎会長)を開き、四十三年から四十五年までの石油精製事業の新増設の許可を決めたが、問題となっていた出光興産の姫路製油所の今年度許可は却下され、四十三年度の許可の際再検討されることになった。

▼ 兵庫県漁業公社の解散
昭和三十四年二月県下沿

どり、全国三百万漁民はこれの防止対策を多年に亘り叫びつづけて来たのであり、今年五月公害対策基本法案が国会に提出されるにあたり、全国漁民大会を始め各県よりのピストン陳情も来たり、充分反映されないまま五特別国会で成立した。これにもついで行政面における関連諸制度、とくに汚水、公害対策の諸完備が十分要請されている現状である。

▼ 淡路西岸などで油
本年一月中旬に淡路西岸の中央部と、七月中旬頃には御津町室津湾から赤穂御崎に至る沿岸に重油が漂着した騒ぎがあった。原因は淡路の場合は、タンカーが他船と衝突事故をおこし、その際流出したもので、もう一つは相生港堤防中の船舶へ燃油貯込中に起った事故によるものであり、いずれにしろわれわれ水産の立場から、当事者は嚴重な注意をして、再びこのような事故を起さないことを切望する。

▼ 徳島県と共同の大
九月二十七日鳴門海峡北側海域に兵庫・徳島共同で特定大型魚礁(同次大型魚礁上称す)が設置された。

▼ 漁船保険制度三十周年を迎える
昭和十二年三月漁船保険法(昭和二十七年三月に同法が廃止され、漁船損害補償法になった)が公布され、保険制度が確立されてからここに三十周年をむかえ全国的に記念式が挙行されているが、但馬漁船保険組合でも十一月十七日水産庁長官代理小関漁船保険課長、細井農林部長等米多敷をむかえて創立記念式典が挙行され、功労者に対しては表彰状が授与された。

▼ 海上交通法
次期国会に審議されるかも知れない「海上交通法」問題は、いよいよ煮えつまって最終段階にきたが、水産庁の各条項の中で漁船従事者にはそのまま納得出来ない諸条項あり、本県においても、もし明石海峡が狭水道に指定される場合ますます重大な問題である。このため明石海峡対策協議会(会長山田洋松)は関係漁民の将来のため、慎重審議「漁民の声」をまとめ、中央機関に要望をアッシュして現在の現状である。本県に重大な問題なので悔を残さない様常に漁民の優先制を押し進めたいものだ。

水試新庁舎明年三月完成予定
同試験場の現庁舎は戦後後建設されたもので、建物設備とも老朽化し、時代に即応した試験研究の遂行が困難であったため、近代的新庁舎の建設は近代漁業の発展からも強く要望されていた。完成後は近代漁業のあらゆる試験研究設備をそなえて、県下漁業者の要請に応えようとする非沢場長をはじめ全職員は、今から大いに張り切っている。

昭和42年度漁村青壮年活動実績発表兵庫大会
昭和43年1月12日(金)水産会館 午前九時半〜午後4時
例年の内海、但馬両地区の漁村青壮年活動実績発表会を1カ所にまとめた兵庫大会が、1月12日兵庫水産会館で開催されます。
本年度の大会は、漁具漁法の改良、浅海増殖の研究、稚魚放流の効果、経営問題など、各部門に亘り県下各地区から、研究活動について10有余グループの発表があります。
グループ相互間の技術、知識の交流をはかり、その成果を広く普及するのが主目的で、年に一度の漁村青壮年のための大会です。研究クラブ員はもちろん、クラブの指導者、一般漁民の皆さん多数のご参加を望んでいます。

YANMAR DIESEL ENGINE

● 漁場と市場を結ぶ!

(新製品)

● PM形 / 3馬力〜4馬力

● 船主兼用 3〜800馬力

● T形 / 10馬力〜20馬力

ヤンマーディーゼル

ヤンマーディーゼル株式会社 / <本社>大阪府北区茶屋町62番地

11~12月の漁海況 (内海側)

海況

播磨灘、大阪湾における11月上旬の水温は、上下層とも20~21°Cで、例年水温和ほとんど差はない。その後の低下はやや、早くなり、11月中旬には16~17°Cを示し、昨年同期より1.0°C内外低目となっている。12月上旬には13~15°Cに下る見込み。

気象の長期予報では、1~3月に異常冷水現象を生じた昭和38年の前年秋期の気象変化と相似する点が多く、12月以降はややきびしい冬の到来が示されている。明石港口で行なっている定置観測結果(昭和23~42年)によると、1月の水温和、昭和25年以前の数カ年は平均水温和より低く、それ以後昭和35年までは比較的暖冬の年が多く、特に昭和29年の高水温和が目立っている。しかし、昭和36年以降は再び平均水温和より低い年が多く寒冬型となっている。

このような寒冬型の年には、西の季節風の吹く日が多く、出漁日数も少なくなる。ここで昭和36年から40年の5カ年間の風向、風速記録によると、明石における12月の偏西風(西南西から北々西の方位)回数は401回(総数1224回)である。その中、風速が毎秒5~10mの回数は67%を占め、10m以上の回数が23%に達している。図-1は、昭和36年1月25~26日に神戸海洋気象台の春風丸によって目視観測された実測の波高分布(m)である。図-2は、同気象台で理論式によって計算された波高分布である。実測より波高はやや、低目になっているが、波高はほとんど同じ分布を示している。

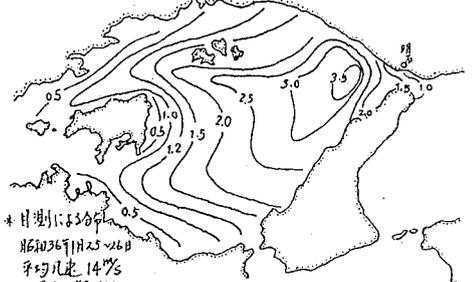
この波高は、海域によって時間の差はあるが、内海では少なくとも1時間内外で生じる高さとして示されている。特に浅瀬の海域では波長も短くなり、速く吹送する場合には、ウネりも加わることも注意したい。気象急変の場合には、漁場から目的地までの避航の時間やコースを常に考慮しておかねばならない。

一方、10月上旬には大阪湾の中部以南の塩素量は18‰以上を示して高かん水塊となっていたが、11月上旬にはやや低かんとなった。12月中も11月と同様、例年より高目に推移するものと思われる。

漁況

水温和の低下とともに、洞窟魚であるアジ、サバ、サワラおよびタチウオなどは、ほとんど南下傾向を示し、カタクチイワシも前報通り、播磨灘北西域で小、中羽群が僅かに出現したのみである。また例年10~11月には淡路西岸でシラスが出現しているが、今年は不漁の中に終漁の模様。イカナゴ(フルセ)は例年よりやや少ないといわれているが、今年の産卵期は、12月中旬後半から下旬前半がその盛期と思われる。(濱田)

(図-1)



(図-2)



瀬戸内海東部の波高分布
神戸海洋気象台報、No.177にお

第十二回

兵庫県漁協婦人部大会

開催せらるる

十一月十四日午前十時より水産会館において第十二回兵庫県漁協婦人部大会が、兵庫漁協婦人部連合会と兵庫県との共催により開催せられた。

当日は県下全域に亘る各漁協婦人部員が早朝より参加し、熱情あふれるばかりの三百名部員が一堂に会し、異ならびに関係機関代補の方々多数の来賓を迎えて盛大に挙行された。

大会の開会に当り北井県漁協連合会長の挨拶に引続き主催者として副知事より激励の言葉を述べ、次いで大会宣言のあと、三浦県漁連会長、西上信漁連会長より、それぞれ水産業界の現況と漁協婦人部のあり方、部員各自の今後の心構え等についての御訓示と励まし

体験発表者

婦人部購買事業について
伊保漁協婦人部
大西みさえ
船祝いと進水式の簡易化について
津居山港漁協婦人部
熊谷文子
組合合併後の私運婦人部について
神戸市西部漁協婦人部
西村いせ子
わたしたち婦人部の食生活改善運動について
福良漁協婦人部
榎原一枝

大会決議

私たちはお互に切磋琢磨し、不断的努力により豊かな明るく住みよい漁村をつくるため本日の大会に於いて今後の活動の中に次のことを実践することを決議します。

一、部員各自が家計簿の記帳を励行し、計画的な漁家生活を営み、貯蓄の増進を図ります。



二、冠婚、葬祭等慶弔時の因習を改め、生活の合理化を図り、住みよい環境づくりに努力します。

三、みんなの健康を守ると、子弟の育成に努め、明るく豊かな生活を営みます。

四、漁業協同組合の健全な発展に寄与するとともに、全国漁協貯蓄二千億円達成に協力します。

「海苔養殖」について一言!!

本県における浅海増殖養殖のトップに「海苔の養殖」が挙げられてきたことは全く喜ばしいことです。赤穂、網干等、先発格の地区から播磨地区は勿論のこと近年摂津、淡路地区迄地先海面の未利用漁場開発の為なかなかに一歩進歩が認められ、良研究を続けておられることは正に漁期対策の好形である。

本年から更に家島、坊勢もいよいよ本格的に第一歩を踏み出し、日本海では但馬、今期も大いなる生産を期待いたします。(船木)

魚の卵の性質

魚は特殊なものを除いてすべてのものが卵をうみ、その卵が孵って稚魚となり成育していくものである。この卵にはその性質から次のように分けられる。

- 1) 浮游卵
卵の比重が水より少し軽いか、またはほとんど同じもので、産卵するとこの卵は海の表面に浮いているか、または中層を浮きも沈みもせず水に漂っているものである。流れに乗って漂いながらだんだんふ化していく。鱈、鯛等魚類はこの浮游卵を産むものが非常に多い。
- 2) 沈性卵
卵の比重が水より大きく、産卵された卵が水底の砂などの上におちつき付着するもので、鮭、鱒類、イカナゴ等の卵は沈性卵である。
- 3) 付着卵
卵に糸がついていてこの糸が海藻などにからみつくようになっていくもので、鰻は産卵する時海藻などに産みつける。サンマ、サヨリ等はこの種のものであるが、イナダ、アユ等は団子のような形になって海藻等に付着している。産卵された卵は一般に小さいものは大きいものより早くふ化する。イワシ類などは2~3日でふ化するがサケなどは1ヶ月以上かかる。(管)

ノボノ マリンディーゼル
いつも漁場に一番のり

- 主機用 4~1000馬力
- 補機用 8~3000馬力

ノボノ
国づくりから米づくりまで
久保田鉄工

●3MKE形/35馬力

養魚の調餌から造粒そして投餌まで
この機械がします

(特許・実用新案) 意匠登録申請中

最近の人工飼料の需要の増加にともない、生魚と人工飼料をよく練り合せ、造粒装置チヨッパーで固型にして投餌する時代となりました。この一連の作業をこの機械が行ないます。

(創一振次第カタログ4頁にいたします)

ミートチヨッパーとプレート、ナイフの専門工場
株式会社 平賀工作所
神戸市長田区水笠通2丁目70番地
TEL代表神戸062-1527

